

# くろまる生涯学習プラン

～河内長野市第2次生涯学習推進計画～

## ＜概要版＞



河内長野市民大学くろまる塾マスコット

### ◆◆◆第I部 くろまる生涯学習プランについて◆◆◆

#### 第1章 くろまる生涯学習プラン策定の趣旨

##### ◇計画策定の意義と背景

本市では、生涯学習社会を構築していくために、平成14年10月に『河内長野市生涯学習推進計画』を策定し、生涯学習の施策をすすめてきました。

この間、本市を取り巻く時代潮流は大きく変化し、平成18年12月に改正された「教育基本法」において、教育に関する基本的理念として、生涯学習社会の実現を図ることが定められ、また、平成20年2月には、中央教育審議会が「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」を答申し、「社会の要請」を重視することや、学校・家庭・地域が連携することによる社会全体の教育力向上の重要性などを指摘しました。

このような時代潮流に応えるため、本市では平成23年6月、市民のための生涯学習推進の仕組みとして「河内長野市民大学くろまる塾」を創設しました。

また、本市では、少子高齢化とは「地域への関わりが強い人々」が増加することだと捉え、さまざまな課題の解決のためには「学び」を活かす市民・行政・事業所など多様な担い手による協働こそが、極めて重要だと考えています。

このためには、さらなる生涯学習の推進が求められることから、『河内長野市第4次総合計画』に基づき、「くろまる生涯学習プラン～河内長野市第2次生涯学習推進計画～」を策定しました。

### ◇生涯学習とは

「生涯学習」については、「自分自身の充実や生きがいを求めるため、自分や家庭・地域の生活を向上していくためなど、狭い意味での「自己実現」と捉えられがちです。しかし、「学習」とは本来それだけではなく、「学習」すること自体が「他者」の存在を前提とした社会的な営みであるところから、この「くろまる生涯学習プラン～第2次生涯学習推進計画～」では「他者との関係」のなかにも、「生涯学習」を位置付けたいと考えています。この意味で「生涯学習」とは、さまざまな変化に対応して、柔軟に、創造的に考え新しい価値観を生み出していくための、自己と他者のための、生涯の学習と位置付けます。

### ◇これからの生涯学習

これからの「生涯学習」は、ひとりの人間が、さまざまなライフステージにおいて直面する課題を解決したり、「生きがい」を創生するといった「個人化された学習」という側面を乗り越え、世代を超えて学びあい、分かりあうことを土台にして他者とつながることを求めていく「学習」や、さまざまな社会的課題を解決する契機となるような「学習」により、その経験を地域社会に活かしていくことが求められます。

## 第2章 くろまる生涯学習プランの概要

### ◇計画の期間

平成24年度(2012年度)からの10年間とし、目標年次を平成33年度(2021年度)とします。

### ◇計画の位置付け

このくろまる生涯学習プランは、改正教育基本法や河内長野市第4次総合計画に基づき、「河内長野市教育立市宣言」をふまえ、市民一人ひとりが自らの人生を充実させるとともに、市の発展、まちづくりの柱としての生涯学習を推進するため、今後取り組むべき施策や事業の具体化を図るものです。

私たちが、豊かな学びの場のもとに生涯にわたって学び続け、すべての市民が幸せに生きる地域をつくるための基盤・仕組みづくりとその充実に、このくろまる生涯学習プランは位置付けられます。

「くろまる」とは、高向玄理(たかむこのくろまる)の名前。高向玄理は、608年に遣隋使小野妹子に従って留学生として隋に渡り、640年に帰国するまでの32年間には、隋の滅亡と唐の成立を目の当たりにし、帰国後、大化の改新が起こると645年に僧旻(みん)とともに国政の最高顧問である国博士(くにのはかせ)に任じられ、政権のブレーンとして活躍しました。古代河内長野で勢力のあった高向氏の出身と言われており、本市の学びの象徴として、市民大学の名称および市施設の「ふるさと歴史学習館」の愛称として使っています。

## ◆◆◆第Ⅱ部 現状と課題◆◆◆

### 第1章 社会潮流の変化と課題

- ◇少子高齢化の進行
- ◇安全・安心への信頼の揺らぎ
- ◇環境との共生
- ◇地方分権の進展と財政悪化
- ◇まちづくり、社会づくりへの市民の参画拡大
- ◇高度情報化社会の進展
- ◇国際化の進展
- ◇家庭や地域の教育力の低下
- ◇労働環境の変化

### 第2章 河内長野市の生涯学習の現状と課題

#### ◇河内長野市の生涯学習に関する課題の整理と施策の方向性

第1次の生涯学習推進計画では、「かわちながのらしさ」を活かしつつ、地域やまちを支える市民一人ひとりの学習を生涯にわたって支援できるように、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも、みずから」学ぶことができ、その成果を発揮できる生涯学習社会の実現をめざすことを理念として掲げていました。

現在は市内各地域で、学習で得られた知識や能力をまちづくりに活かしたり、「つながり」の創出や市民との協働などを目指す生涯学習の一層の推進が求められています。

このため、生涯学習を総合的に進める仕組みとして河内長野市民大学くろまる塾を創設しました。今後は、生涯学習を個人の「生きがい」や「自己実現」だけではなく、他者との関係の中にも位置付ける学習を総合的・系統的に推進するための中核的機関としてくろまる塾を位置付け、その機能の拡大・充実を図ります。具体的には、市民交流センターおよび各地域における「地域くろまる塾」での生涯学習の多様な展開によって、各地域の特性・特色を活かしながら、一層の地域力の向上とまちづくりや行政、団体等との協働を担う人材の育成を目指します。



生涯学習のマスコットマーク「マナビィ」

## ◆◆◆第Ⅲ部 基本構想◆◆◆

### 第1章 くらまる生涯学習プランの基本理念

市内全域が学びの場

ひとをはぐくみ つながりひろげ ゆたかなまちをつくる  
生涯学習のまち かわちながの

### 第2章 くらまる生涯学習プランの基本目標

- |              |   |              |
|--------------|---|--------------|
| 1. 「学び」を開く   | — | 生涯学習の場の整備    |
| 2. 「学び」で拓く   | — | 生涯学習機会の提供    |
| 3. 「学び」でつながる | — | 生涯学習活動の支援    |
| 4. 「学び」をささえる | — | 生涯学習推進体制の整備  |
| 5. 「学び」を活かす  | — | 生涯学習によるまちづくり |

## ◆◆◆第Ⅳ部 基本計画◆◆◆

### ◇基本計画

本市では「河内長野市生涯学習推進計画（第1次）」の集大成として、河内長野市民大学くらまる塾を平成23年6月に開校しました。くらまる塾は、市民が地域で幸福に生きるために必要とされるさまざまな「学習」を提供するものであり、この「くらまる生涯学習プラン～河内長野市第2次生涯学習推進計画～」においては、「生涯学習」を総合的・体系的に担う中核となる仕組みとして位置付け、その展開と充実のための施策を打ち出しています。

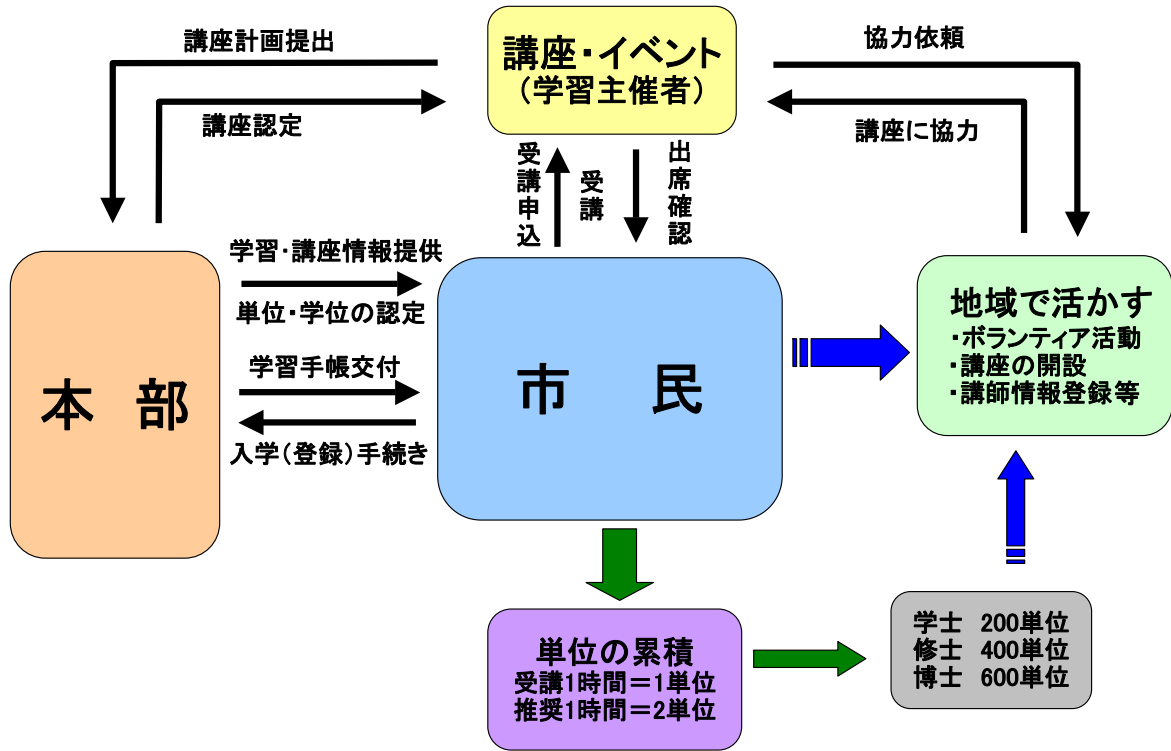
### 第1章 「学び」を開く — 生涯学習の場の整備

#### ◇生涯学習の場の確保

#### <河内長野市民大学くらまる塾の展開>

本市が創設した「河内長野市民大学くらまる塾」の運営方針は、市域すべてが「学びの場」であること、さまざまな地域社会の問題・課題解決を目指すソーシャル・カレッジとしてのカリキュラムを目指すこと、市民の学びを生かす場をコーディネートすることの3点を主な特徴としています。

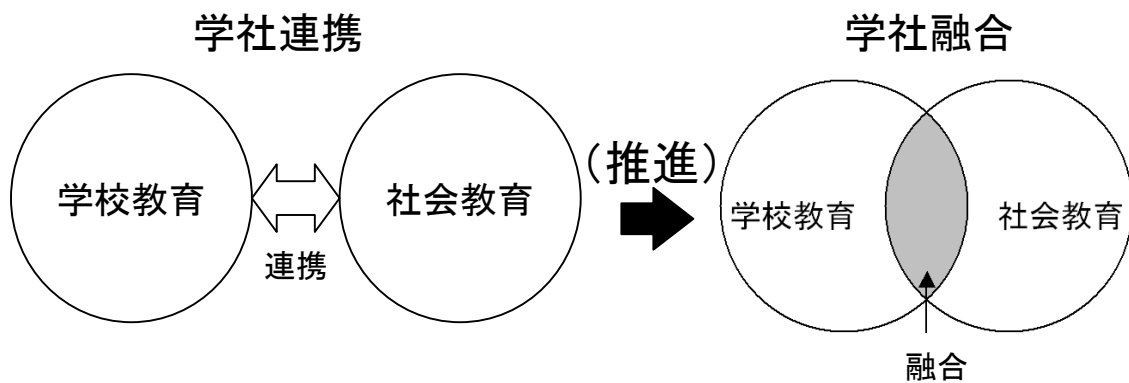
# 河内長野市民大学「くろまる塾」のしくみ



## <新しい公民館等の位置付け>

地域の公民館をめざして、公民館、コミュニティセンターを各小学校区を単位とする、生涯学習や福祉、安全など地域活動の拠点と位置付け、地域の主体的な運営や生涯学習推進の充実を図ります。小学校区に公民館・コミュニティセンターのない地域には、その機能の確保に努めます。

## <学社融合の場の拡大・推進>



※ 学校教育と社会教育が相互に足りない部分を補い利用する方法

※ 学校教育と社会教育の双方の目的を同時に達成する方法

## ◇生涯学習の場の機能強化

くろまる塾と各文化・教育・社会施設等との連携  
 各学習機能を持つ施設の利便性の向上

## 第2章 「学び」で拓く ― 生涯学習機会の提供

### ◇学習課題への対応

- 青少年の生涯学習課題への対応
- 家庭・家族の課題への対応
- 現代的・社会的課題等への対応
- 参画と協働のまちづくりへの対応
- 多様な価値観・関心に基づく学習への対応
- 地域学の確立
- 世代間交流プログラムの充実
- 生涯スポーツ環境充実のための対応

### ◇学習条件の整備

- 市内全域を「学びの場」に
- 公立機関における展開

## 第3章 「学び」でつながる ― 生涯学習活動の支援

### ◇情報などの活用による支援の充実

- 生涯学習情報の収集と発信機能の充実
- くろまる塾における学習相談機能の充実
- 生涯学習による社会包摂機能の展開

### ◇学習を目指す人への支援の充実

- 生涯学習グループ化への支援
- 学習者およびテーマ型学習グループの発表の場の確保
- 生涯学習実績の記録と評価
- 生涯学習スタッフ・ボランティアの育成と協働
- 情報化（ICT）への対応・充実

### ◇くろまる塾と各機関等とのネットワーク化による支援の充実

- 学校等との連携
- 大学との連携
- 事業者・NPO 等との連携

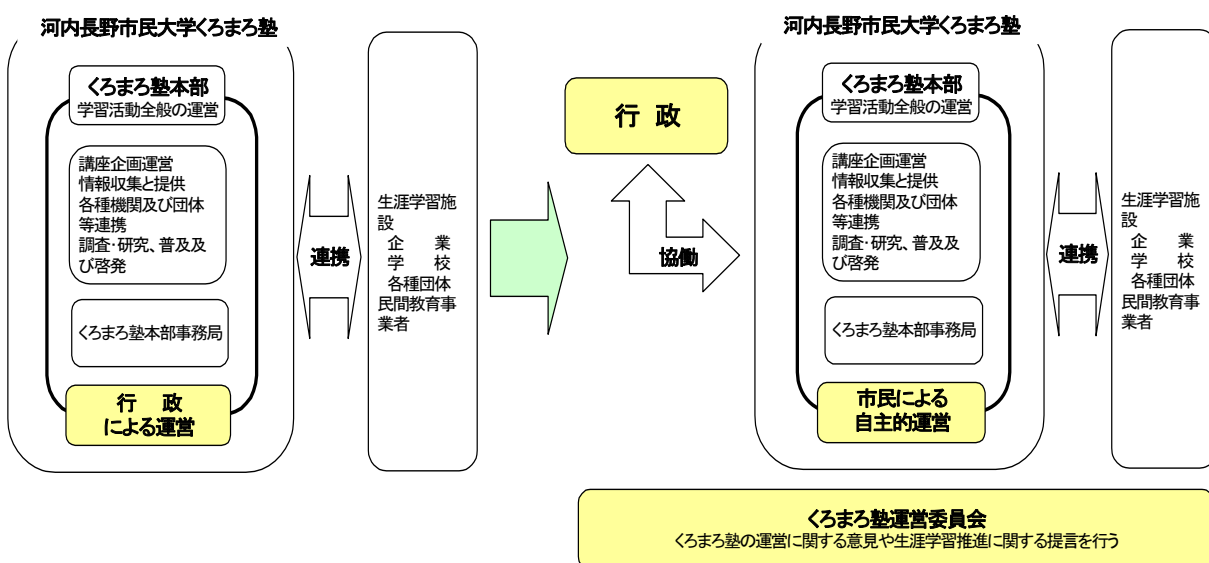
## 第4章 「学び」をささえる — 生涯学習推進体制の整備

### ◇生涯学習への市民参画と協働の推進

平成23年6月に開校した河内長野市民大学「くろまる塾」は、特に人と人のつながりを強め、地域課題を解決できる人材の登場を期待するものです。

生涯学習においても市民が主体的にその運営等に参画し、名実ともに市民による市民のための「市民大学」を目指すこととなります。「学習」とは他律的なものではなく、自ら学習する自発的な「学び」のことであることから住民主導は極めて大切なことです。また、生涯学習政策の形成過程に市民の参画を促進するため、生涯学習にかかわりのある審議会や委員会の見直しを行い活性化を図ります。

#### ◆ 河内長野市民大学くろまる塾体制移行 イメージ図

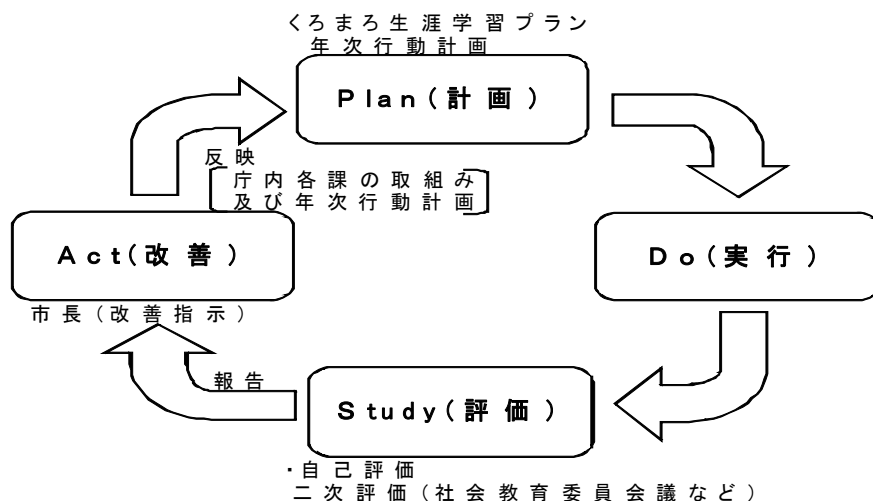


### ◇市内部の推進体制の充実

生涯学習推進組織の充実

生涯学習推進（サポート）職員の育成と配置

### ◇年次行動計画の作成と評価体制



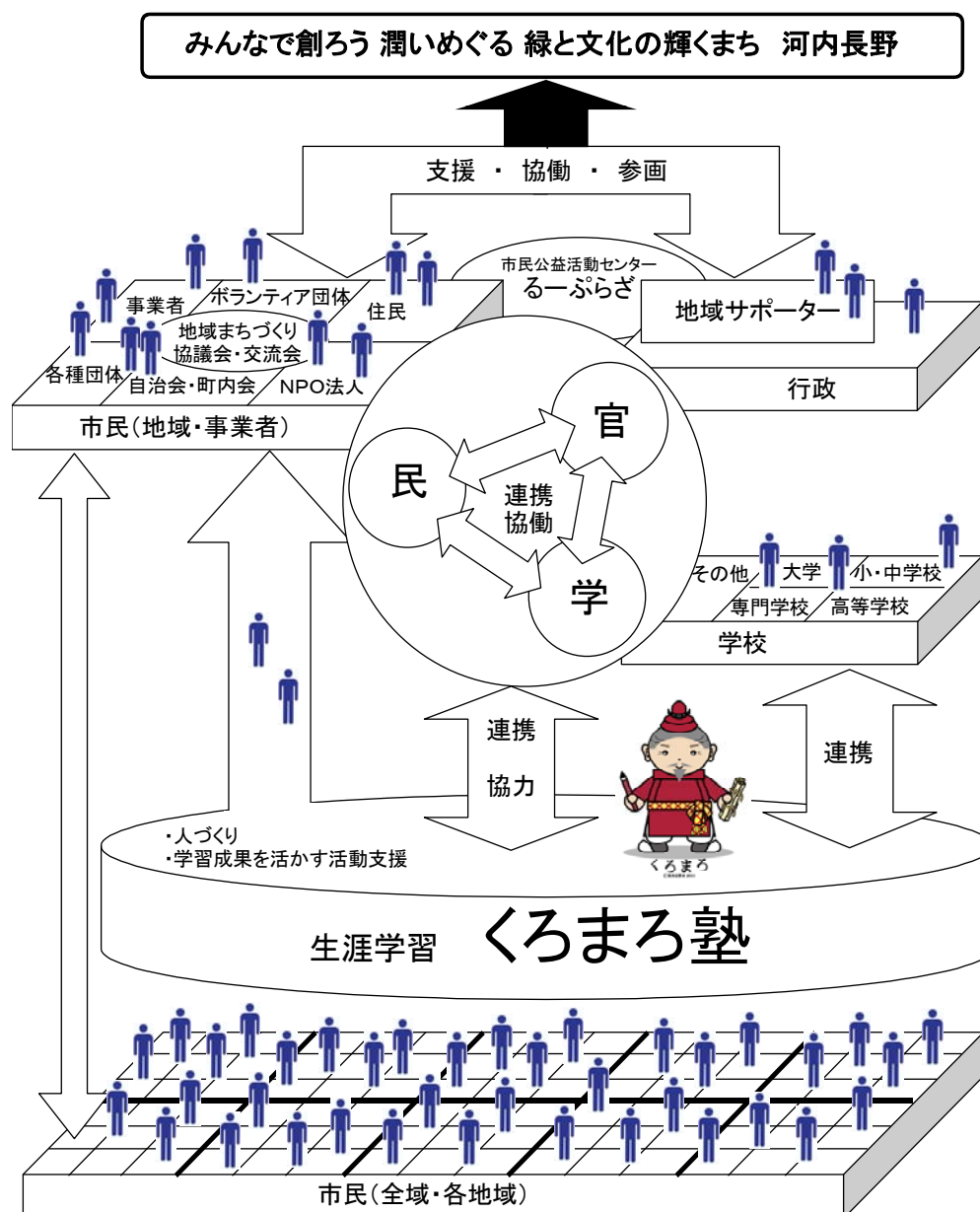
## 第5章 「学び」を活かす — 生涯学習によるまちづくり

### ◇学習の成果を活かす活動の支援

これからの地域づくりは、市民による主体的な取り組みを中心に、行政はその補完をすることにより進められます。それは市民のニーズが多様化し、行政が提供するサービスにも限りがあるからです。効率性一辺倒から配慮の行き届いたサービスへ、他の地域に頼らない自律的な地域へ、市民同士、行政のあり方が良く見える「顔の見える」人間関係と地域へとまちをつくっていくことが求められます。このためには、市民・事業者同士の協働、市民・事業者と行政との協働などにより、問題・課題を解決していかねばなりません。

市民は、生涯学習によって、地域課題・テーマを発見し、その学習を通して、地域に根ざしたまちづくりの多様な担い手となり、コミュニティを形成してゆくことができます。

#### ◆ 人づくり・まちづくりのイメージ図





# 基本計画 施策体系図

